

## こども園における自己評価結果報告

こども園における自己評価の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。  
自己評価の結果を踏まえ、今後の教育・保育の質の向上並びにこども園運営の資質向上に努めて参ります。

A: たいへんよい  
B: よい  
C: 一部検討を要する  
D: 改善を要する


項目	内容	評価				取り組み状況及び課題
		A	B	C	D	
教育・保育理念	(1) 理念や基本方針が職員に周知されているか		○			<p>「どのような子どもに育ってほしいか」という目指す子ども像について、年度当初職員間で話し合ったが、共通理解する機会が十分に持てなかったことにより保育観にズレが生じた。このことを踏まえ、来年度は保育をすすめる中で、常に園の目指す「子ども像」を職員間で確認しあい共有することを大事にしていきたい。</p> <p>・保護者への理念や基本方針の周知については、保護者アンケート結果から十分でないことから、今後は「何を大切に保育しているのか」や保育する中での子どもの育ちについて子どもの姿を通してわかりやすく保護者に伝えることでその周知を図っていく。</p>
	(2) 理念や基本方針が利用者に周知されているか			○		
	(3) 理念や基本方針に基づいた教育保育が行なわれているか		○			
	(4) 一人一人の子どもの人格を尊重した教育保育について共通の理解をもっているか		○			
教育保育の計画	(1) 社会状況や子どもの実態、地域性などを考慮し、必要に応じて教育保育課程の見直しを行っているか		○			<p>・乳児が機嫌よく、また意欲的に生活するためには、食べる、遊ぶ、寝る、といった生活リズムをつくるのがとても大切なことであるため、一人一人の発達や状況に応じた指導計画をきめ細かく作成している。</p> <p>・子どもの主体性や個性の尊重を重視した保育を年度後半職員間で話し合い実践した。行事についてもその点にこだわり計画実施した。子どもの興味関心のある普段の遊びの中で行事が展開され、一人一人が自分に合ったアプローチの仕方に参加できた。</p>
	(2) 指導計画は、乳幼児の心身の発達を踏まえ、入園から修了までの長期的な視野を持って充実した生活が展開できるように配慮し作成されているか		○			
	(3) 子どもの生活が豊かになるように行事を精選し、子どもの発達を踏まえて、その内容や実施の仕方について見直しを行っているか		○			
子どもの発達援助	(1) 子ども一人一人の健康状態や発育・発達の状態を把握し、職員間にて共有されているか		○			<p>・子どもは遊びの中で、“食べる”“料理を作る”等食に関わる見立て遊びをしていることが多い。このことから、食生活は乳幼児時期の生活に大きな影響を与えていることがわかる。今年度後半の食育活動は、普段の遊びの中に取り入れ、楽しい中ですすめられるよう工夫した。子ども達は遊びの中で活動出来る喜びを十分感じられた様だった。来年度も継続し、子ども達の食への興味関心を遊びの中で引き出していけるよう努めていく。</p>
	(2) 子どもが安定感をもって過ごし、自分の気持ちを安心して表すことができるよう留意しているか		○			
	(3) 子どもに相応しい食生活が展開されるように、食事について見直しや改善を行っているか		○			
	(4) 子どもが食事を楽しむことができる工夫をしているか		○			
	(5) 子どもが主体的に活動できるような、人的・物的環境が整備されているか			○		<p>・子ども一人一人の興味や関心を起点とし、子どもが自分のやりたいことを選び、じっくり遊びこむ時間と場所の充実を図ってきた。しかし、それぞれが持つ保育観から悩むこともあったため、今後は、一人一人が自身の保育を常に振り返り話し合うことで、目指したい保育観の理解と共有をしていきたい。</p> <p>・今年度は熊の出没や熱中症警戒アラートの発令が多く、子どもの安全性を優先した為、計画した活動が思うように出来なかった。しかし、室内をオープンにしていくつものコーナーをつくり、さまざまな種類の遊び環境を充実し、発達に必要な体験を積み重ねられるようにした。自然物なども意図的に室内に準備し、乳児にとって必要な五感を刺激するあそび環境の工夫も行った。</p>
	(6) 子ども一人一人を受容し、理解を深めて働きかけや援助が行われているか		○			
	(7) 健康安全や発達の確保を十分に図り、日々の環境を整えているか		○			
	(8) 子どもが自ら周囲の様々な環境と関わり、発達に必要な体験を積み重ねていけるよう努めているか			○		

項目	内容	評価				取り組み状況及び課題
		A	B	C	D	
	(9) 子ども自身が自分を肯定する気持ちを育まれていくよう、継続的な信頼関係が築かれているか		○			・子どもの思いを理解し、肯定的に受け止めたりその子の良さを見出そうとしたりして、継続的な信頼関係を築くよう努めている。
	(10) 保護者の生活形態を反映した子どもの在園時間の長短、入園時期や登園日数の違いを踏まえ、子ども一人一人の状況に応じた工夫が行われているか		○			
保護者に対する支援	(1) 子どもの発達や教育保育などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通の理解を得るための機会を設けているか		○			・今年度、ICTシステム(コドモン)のドキュメンテーション機能を導入したことにより、保育者の負担が軽減され子どもの姿を保護者により多く伝えることが出来た。また、子の表情等の細かいところまで保護者に確認してもらえるようになった。今後も子どもの学びや育ちを保護者と共有できるよう努めていきたい。
	(2) 虐待に対応できる園内の体制(医療機関、児童相談所など専門機関との連携)の下、不適切な療育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び予防に努めているか		○			・送迎時の保護者とのコミュニケーションを大切に对应した。子どもや保護者の実情と気持ちを受け止め必要な支援を行うよう努めた。
	(3) 地域の子育ての拠点として「こども園の開放」「相談・援助」「交流の場の提供」「情報の提供」の支援を行うよう努めているか		○			・子育て支援「あつぷっぷ」を週二回開催し、利用者が気軽に子育ての悩み等を相談できる場となっている。園の持つ専門性を生かし、給食担当者が離乳食試食会を開催し食事に関するアドバイスをしたり看護師が個別で健康面の相談を受けたりして利用者の子育てを支援している。
教育保育を支える組織的基盤	(1) 感染症やその他の疾病の発生予防に努め、看護師の専門性を活かした対応を図っているか		○			・乳児は病原菌に対する抵抗力が弱く集団の場では子ども同士の接触が増える為、健康面の細やかな対応や感染症等の情報を有しつつ看護師の専門性を活かしながら対応することが出来た。引き続き、子どもに対する衛生指導などを工夫したり職員も嘔吐処理や誤飲対応法の実技研修を継続していく。
	(2) 体調不良、アレルギー疾患等をもつ子どもに対し、適切な対応が行われているか		○			
	(3) 避難訓練・安全点検・不審者侵入防止訓練等、子どもの安全確保のための適切な対応が行われているか		○			・毎月様々な災害を想定した避難訓練を実施した。状況によっては、マニュアルに当てはまらず安全確保が難しい災害の発生時における役割分担や職員間の連携が課題となった。その都度、話し合いを行い、その時々での対応について共通理解するようにした。職員一人一人が高い防災意識を持って、災害発生時に落ち着いて行動できるようにしていきたい。
	(4) 地震などの自然災害に対する防災対策は行われているか		○			
	(5) 施設長がリーダーシップを発揮し、職員が教育保育の内容の充実と質の向上を図れるよう努めているか		○			・年度後半の園内研修は、子ども理解を深めることに重点を置いた。今まで気がつかなかった子どもの心の動きや行動の意味などを理解することができた。今後も職員一人一人の思いや考えを尊重し合い、多面的な視点から保育や子どものことを考えられる関係性を構築し、保育の資質向上を図っていきたい。
	(6) 研修等、教育保育の質の向上を図るべく、自己研鑽への取り組みを積極的に行っているか		○			
	(7) 事業計画が職員に周知されているか			○		
	(8) 事業計画が利用者に周知されているか			○		
	(9) 守秘義務の遵守が全職員に周知され、守られているか		○			・事業計画は、年度初めや入園時に文書で知らせているが、職員、利用者共に周知が十分ではなかった。来年度は、コドモンの資料室やLINEWORKSを有効活用しながら目につきやすい場所に掲示するなど工夫していく。
	(10) 個人情報適切に取り扱うとともに、保護者の苦情に対し、早期解決を図るよう努めているか		○			
	(11) 苦情解決の仕組みが確立され、保護者等に十分に周知・機能しているか		○			
	(12) 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備しているか		○			・年3回の自己評価の実施に加え、毎月の振り返りを行い、保育の方向性や取り組み、子どもへの関わり方などを話し合い指導計画に反映するよう努めている。しかし、計画と実行の反復になってしまいPDCAサイクルが回れないこともあった。保育の様子を積極的に職員間で語り合うことを通して、日常的に保育を振り返り、保育者としての専門性を向上させていきたい。
	(13) 保育教諭等が主体的に自己評価に取り組み、教育保育の改善が図られているか		○			
	(14) 個人の評価結果に基づき、組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施しているか			○		

- ① 要望・意見から園での対応が丁寧であり、保護者とのよい信頼関係のあわれみではないかと感じられます。細やかな配慮がなされていて、安心して預けられているのだと思います。
- ② 園のめざす子ども像を確認しあうための、ふり返りを話しあい、保育観を共有する時間があったことは、成果が大変いいと感じました。
- ③ 行事のための保育ではなく、遊びの中に行事の雰囲気作りや、エリカなく知らせる、伝えみるといった保育のあり方は、乳児にとって素晴らしいと思います。
- ④ ほけんたまりに載せる中で特に今知らせたいと思える内容は別に作成し保護者に配布により正しく理解しあえるといいですね。

令和 7年 3 月 17日

役職等 監事

氏名 堅田 光恵  印

## やざき乳児保育園の評価結果に対する意見・コメント

昨年引き続きアンケート結果では、保護者の方がほぼ満足していると感じられました。いくつかの項目(お子様は園の活動を楽しんでいますか等)で評価がほぼAになっていて素晴らしいなと思いました。

・理念や基本方針については、保護者にとってはあまり重要なことではなく関心がないのかもしれませんが。 今後は具体的に何を大切にしながら保育しているのかわかりやすく保護者に伝えていって下さい。

・職員の保育観や、働き方等で目指したい保育観の理解、共有はなかなか難しいとは思いますが取り組みにもかかっているように自身の保育を振り返り職員会等で話し合われ同じ目標に向かって共通理解、共有しよりよい保育をめざし専門性を高めていってください。

令和 6 年 3 月 21 日

役職等 監 事

氏名 嘉藤 恵子



保護者アンケートにおいて、多くの項目で「あてはまる」と「まあまああてはまる」で100%となっており、アンケートの回収率も100%となっています。このことは、保護者が園に対して高い関心を持つとともにその内容や活動に大変満足していることを示していると思います。小規模であることを生かしたきめ細やかで丁寧な対応が、保護者の安心感につながっているのだと思います。

今後の課題として、保育者一人一人の保育観を生かしつつも「やざき乳児保育園」の目指すべき保育観を創造し、すべての保育者がその保育観を理解し共有することが挙げられています。そのためには、日々の保育の振り返りから始まり、保育者間での保育の語り合いが必要ですが、これを実現するにはそのための時間、場所をどうするか、働き方改革の進む中でいかに工夫していくかが求められます。そして何よりもより良い保育をしたいという保育者の意欲が重要なのだと思います。これからの取り組みに期待しています。

令和 7年 3月18日

役職等            監 事           

氏 名            森            和 美           

